

注目すべき初公開の出土品

No.1 飛禽鏡 (中国鏡)

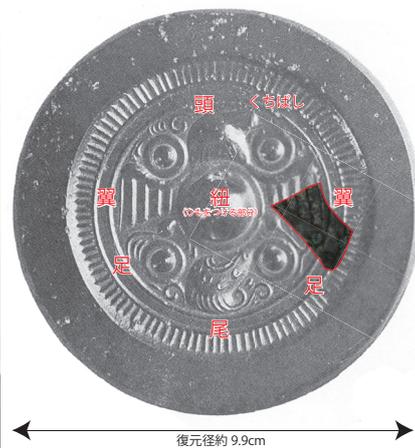
- ・飛ぶ鳥をモチーフにした図を、鏡の背面に描いた中国製（後漢～三国時代）の銅鏡。
- ・破片のまま使用された「破鏡」。
- ・長瀬高浜遺跡での銅鏡の出土は18例目（中国鏡は2例目）。
- ・飛禽鏡は県内2例目。国内でも十数例しか出土していない珍しい鏡。
- ・竪穴建物からの出土は国内で初めて。

【法 量】 2.1cm×1.4cm、厚さ1.5mm
重量1.93g

【出土地】 長瀬高浜遺跡4区（令和6年度調査）
古墳時代前期（約1,700年前）の
竪穴建物跡



出土した飛禽鏡の破片



※背景の鏡は平塚市大同江区域出土
（樋口隆康『古鏡』図版78-155）
本来の直径9.0cm

飛禽鏡復元模式図

No.2 筒形銅器 (舌)

- ・槍などの柄の下端にとりつけられた飾り金具。内部の空洞に舌（金属製の棒）を入れ、音を鳴らしていた（管玉や小石なども舌として代用された）。
- ・今回出土したのは青銅製の舌のみで、本体は出土していない。両端は使用によりよく磨り減っている。
- ・筒形銅器は本体を含め県内3例目。
- ・古墳の副葬品として出土するのが通例で、集落で出土するのは珍しい。

【法 量】 長さ5.3cm、径6mm、重量11g

【出土地】 長瀬高浜遺跡4区（令和6年度調査）
古墳時代前期（約1,700年前）の
竪穴建物跡



出土した筒形銅器の舌



参考：筒形銅器
（鳥取市西浦山古墳出土）
鳥取県立博物館 2008
『企画展「因幡・伯耆の王者たち」図録』

No.3 製塩土器

- ・塩づくりに使われた専用の土器
- ・濃い塩水（鹹水）を煮詰めて塩の結晶を取り出す工程「煎熬」のために使われた可能性が高い。
- ・大阪湾沿岸で出土する甕形をした製塩土器。同タイプのは、山陰初の出土例。

【法 量】 高さ26.7cm、口径23.3cm（復元）
容量3.1ℓ

【出土地】 長瀬高浜遺跡2区（令和4年度調査）
古墳時代前期（約1,700年前）の
竪穴建物跡



出土した製塩土器